

1 単元名 「大事なことをまとめよう 教材名：めだか」

2 単元について

本単元は、記録や報告の文などの文を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり意見を述べたりする言語活動を通して、目的を意識して中心となる語や文を選び要約する資質・能力を身に付けるとともに、言葉がもつよさへの気付きや、思いや考えを伝え合おうとする態度を養っていくことを目指している。

そのために、単元を見通した言語活動を「生き物の『すごいひみつカルタ』を作って2年生とカルタ大会をひらこう」と設定し、具体化する。こうすることで、児童は中心教材「めだか」の「すごいひみつ」とは何か、という思考を働かせながら主体的に言葉と向き合うはずである。また、2年生でも「ひみつのすごさ」がわかるようにカルタの読み札を作るには、発見した「すごいひみつ」を「中心となる語や文」を選びながら端的に表現する必要があるため、必然的に「段落の大事な言葉や文」に着目していくはずである。さらに、「すごいひみつ」に希少価値（レアカード）をつけることによって、「自分にとって希少価値の高い『すごいひみつ』は何か」を考えたり、「ひみつの価値」を他者に説明したりする必要性が生まれてくるはずである。

このように、単元を見通す学びのプロセスを常に意識しながら「主体的な学び」につながる活動を保障することによって、対話的な学びや深い学びにつながり、自律性が育まれていくと考える。

3 単元の目標と評価規準

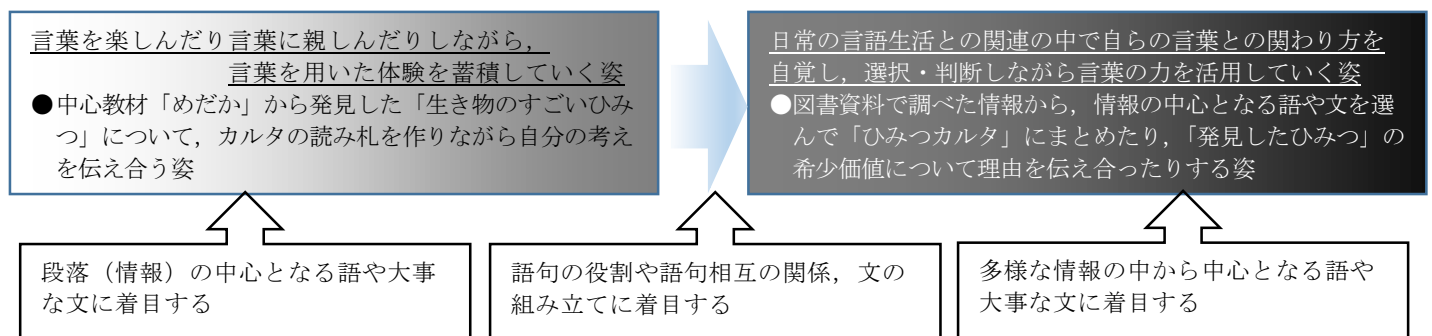
(1) 単元の目標

記録や報告の文などの文を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり意見を述べたりする言語活動を通して、目的を意識して中心となる語や文を選び要約する資質・能力を身に付けることができるとともに、言葉がもつよさへの気付きや、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

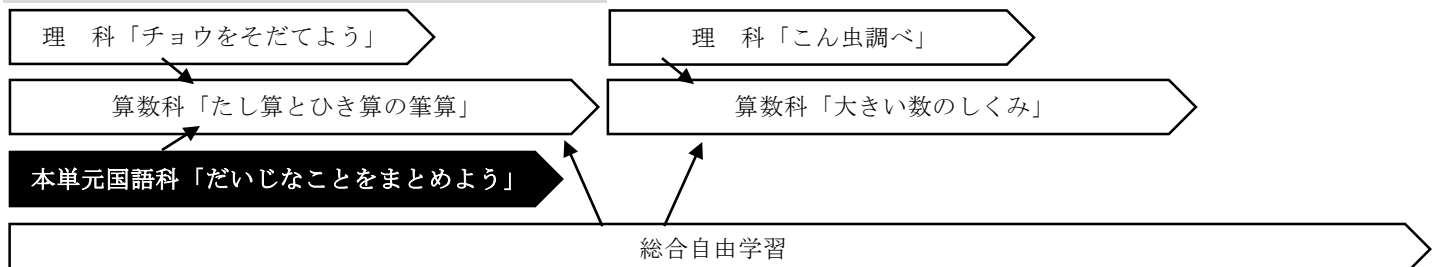
(2) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
ア 疑問や課題を解決したいという意欲をもち、解決の手掛かりとなる本や文章を既習の方法を使って検索して見付けたり、それを読んで自分の考えをまとめたりしようとしている。	ア 「生き物のすごいひみつ」をカードにまとめるために、段落の中心となる語や文を選びながら読み、文章の内容を短くまとめている。 イ 自分の体験や既習の内容と結びつけながら中心教材や図書資料を用いて調べた「生き物のすごいひみつ」の中から「一番のひみつ」を選び、その理由を述べている。	ア 文の中での語句の役割や、語句相互の関係に気を付けて、文がどのように組み立てられているかを理解しながら読む。

4 本単元において育みたい自律性と、働かせる「見方・考え方」



5 学級・学年経営年間プログラムとのかかわり



6 学びの過程のデザイン（全9時間）

学 習 活 動

一貫した主体的学びをつなぐ手立て

- 1 単元の見通しを知り、自分が作りたいすごいひみつカルタの生き物を決める。【関ア】
- 2 ひみつを調べる本を図書室で選び、カルタの読み札を作る。【読ア】

【個の確立】 教師が選定した「生き物」を数種類提示することによって、子供が調べたい「生き物のひみつ」を調べようとする姿を引き出す。

【見方・考え方を働かせる】

- ・必要に応じて、教師が選定した図書資料を紹介することをきっかけとして、子供が多様な情報の中から知識や既習の学習内容を想起させて「生き物のすごさ」に着目して読む姿につなげる。

【個の内面化】

- ・現時点で、「自分の調べた生き物でカルタの読み札を作ることができるか」を問うことによって、学習過程を振り返り、中心教材を読もうとする子供の姿につなげる。【1】

- 3 中心教材から「めだかのすごいひみつ」を探しながら読む。【読ア】
- 4 発見した「めだかのすごいひみつ」でカルタの読み札を作る。【読ア】 【本時】

【個の確立】 段落の中心となる文を3つ提示し、選択させることによって、子供が中心となる語や文について問題意識をもち、選んだ理由について自分の考えを表現できるようにする。

【見方・考え方を働かせる】

- ・必要に応じて、「カルタに載せる『めだかのすごいひみつ』は何かを問うことをきっかけとすることで、自分の体験や既習内容と結びつけながら読もうとする子供の姿につなげる。

【見方・考え方を高める】

- ・前時で捉えた段落の「大体の内容」や「小見出し」を問うことにより、段落の構成と中心となる語や文を結びつけて読もうとする子供の姿につなげる。

【個の内面化】

- ・以前作成したカルタと、本時で作成したカルタを比較し、カルタの内容で何が変わったかをノートに記述することで、子供が自己の現状を分析できるようにする。【1】

- 5 「めだかのすごいひみつカルタ」の読み札の中から、レアカードを決める。【読イ】

【個の確立】 中心教材で作成したカルタの中から「一番のすごいひみつと言えるカルタはどれか」を問うことをきっかけとして、子供がその理由をノートに記述できるようにする。

【見方・考え方を働かせる】

- ・必要に応じて、「自分が考える『めだかのすごいひみつ』は何かを問うことをきっかけとすることで、自分の体験や既習内容と結びつけながら読もうとする子供の姿につなげる。

【見方・考え方を高める】

- ・意見交換の場を設ける際に同じ読み札を選んだ児童を紹介し、理由を比較させることで選んだ読み札が同じでも理由が異なっていることや、一人一人の感じ方が異なっていることに気付く子供の姿を引き出す。

【個の内面化】

- ・中心教材を通して作成した「生き物のすごいひみつカルタ」の学習過程を振り返らせることで、自分が選んだ図書資料でも作成できそうだという見通しをもつ子供の姿を引き出す。【1】

- 6 自分が選んだ図書資料の中から、「生き物のすごいひみつ」を見つける。【関ア】
- 7 見つけた「すごいひみつ」でカルタの読み札を作る。【読ア】 【言ア】
- 8 自分が作った「生き物のすごいひみつカルタ」の読み札の中からレアカードを決める。【読イ】
- 9 生き物のすごいひみつカルタ大会をひらく。

【個の確立】 図書資料を十分に読む時間を保障し、自分の体験や既習内容を想起しながら読む姿を引き出す。

【見方・考え方を働かせる】

- ・必要に応じて教師が資料と一緒に読み、情報の大体の内容を捉えさせることによって、段落の中心となる語や文に着目するきっかけになるようにする。

【見方・考え方を高める】

- ・情報の大体の内容と中心となる語や文のつながりを問うことによって、情報の構成と中心となる語や文を結びつけて読もうとする子供の姿につなげる。

【個の内面化】

- ・以前作成したカルタと単元の終末に作成したカルタを比較させ、ちがいは何かを記述させることにより、段落の中心となる語や文を捉えて読む等の学びの価値について振り返ることができるようにする。【1】

7 本時について（4／9時間目）

(1) 本時の目標

「生き物のすごいひみつ」カルタの読み札に書く言葉について書いたり話し合ったりする言語活動を通して、段落の中心となる語や文を選びながら読み、文章の内容を短くまとめることができる。

(2) 一貫した主体的学びを「つなぐ」ために（個の内面化）

・「2年生もカルタで楽しく遊べそう」という思考になった段階で、「なぜ、今日作った読み札なら2年生も楽しく遊べるのか」を問い、その理由をノートに記述したり単元前半の記述と比較させたりすることで、自己の現状を分析できるようにするとともに、自分が選んだ図書資料でも作れそうだという見通しをもつことができるようにする。

(3) 本時の展開

学習活動	主な働きかけ・手立て	【評価】 個に応じた指導（▲）
<p>1 前時の学習を振り返り、本時の学習の見通しをもつ。</p> <p>この前は、読み札を書くために「めだかのすごいひみつ」を探しながら読んだね。</p> <p>でも、そのまま書くと2年生にとってわかりづらい文になっていたね。ギュッと短くすることが必要だね。</p> <p>2 中心教材「めだか」を読み、読み札に書く文を選ぶ。</p> <p>めだかの「すごいひみつ」を読み札に書くために大事な文は、A、B、C、の中でどれかな？</p>	<p>【個の確立】</p> <p>□第3段落の中から3種類の文を提示し、「読み札に書くための大事な文はどれか」を問うことで、中心となる語や文を捉えて読むきっかけになるようにする。</p>	

**めだかの「すごいひみつ」を読み札に書くために、大事な文はどれ？**

<p>・Aではないな。めだかではなく、ちがう魚のことを言っていると思うよ。</p> <p>・僕は、Bだと思う。Bの文は、めだかの体のことを言っているよね。</p> <p>・私は、Cかな。海に流されても、自分で戻ってこれるなんてすごいよね。</p>	<p>【見方・考え方を働かせる】</p> <p>□中心教材を読む時間や理由を記述する時間を十分に保障しながら、必要に応じて、次の発問をすることで、児童の見方・考え方を引き出していく。</p> <p>□立場を問う発問 「どの文が大事だと思う？」 「どの文だと読み札に書けそう？」</p> <p>□理由を問う発問 「なぜ、その文が大事だと思ったの？」 「なぜ、その文なら読み札に書けるの？」</p>	<p>【読ア～ノート】</p> <p>▲必要に応じて、教師と一緒に文章を読んだり、選んだ理由について対話しながら聞き出していくことで、児童が理由について自覚化できるようにする。</p>
<p>3 選んだ理由を交流する。</p> <p>・Aは、「真水でくらす魚」のことを言っているから、「めだか」のすごいひみつにはならないね。</p> <p>→BとC、どちらが大事なのかな。</p> <p>→Bは、「めだかの体」のことを言っているよ。大きな3段落で大事なものは、「めだかの体」のことじゃないかな。</p> <p>→「めだかの体」が大事だという証拠はあるかな。</p> <p>→大きな3段落を読んでみると、「めだかの体」という言葉や「たえられる」という言葉がたくさん使われているよ。</p> <p>→この言葉が証拠の手がかりになりそうだね。</p> <p>→それなら、この言葉があるBが大事な文なんだね。</p> <p>→大きな3段落は、「めだかの体が自然の厳しさにたえられる」ことを説明しているんだね。</p>	<p>【見方・考え方を高める】</p> <p>□選んだ理由を交流させながら、Aの文の主語は「めだか」ではないことを捉え、BとCに絞られた段階で、<b>特に大事な言葉はどれか</b>を問う。</p> <p>□「めだかの体」や「たえられる」等の特に大事な言葉を引き出しながら、「<u>なぜ、その言葉が大事だと言えるのか</u>」を問うことで、意味段落の中に何回も「めだかの体」や「たえられる」という言葉が使われているという気付きを促し、<b>段落の中心となる語や文を捉えることができるようにする。</b></p>	

**<学習へのアイ>大事な文は、大きな3段落では「めだかの体」や「たえられる」が使われている文。なぜなら、何回も言葉がくりかえされて使われているから。**

<p>4 ⑨・⑩段落で読み札を作る。</p> <p>⑨も⑩も「めだかの体」のことを言っているから、めだかの体のことを言っている文を探すといいね。</p> <p>5 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。</p> <p>・今日作ったカルタなら、大事なところギュッとすることができたから、2年生も遊べそうだね。</p> <p>・これなら、自分の選んだ本でも、読み札を作ることができそうだよ。</p>	<p>【個の内面化】</p> <p>□「2年生もカルタで楽しく遊べそう」という思考になった段階で、「<u>なぜ、今日作った読み札なら、2年生も楽しく遊べるのか</u>」を問い、その理由をノートに記述し、単元前半の記述と比較させることで、自己の現状を分析できるようにするとともに、自分が選んだ図書資料でも作れそうだという見通しをもつことができるようにする。</p>	<p>【読ア～ワークシート】</p> <p>▲大きな3段落で大事な言葉は何かを教師が児童と対話することで整理できるようにする。</p>
--	---	---

